お順さん

中津市長　奥塚　正典

「親の顔が見たい」とは普通よい意味に使いません。でも尊敬すべき凄い人に出会うと文字どおり親に会ってみたくなりますね。「この子にしてこの親あり。」その意味で郷土の偉人福澤諭吉を育てたお母さんの『お順さん』はどんな人だったか。表舞台にはあまり出てきませんが、福翁自伝などからその母親像に心惹かれます

お順さんは中津藩の武家生まれ、20 歳で下級武士の諭吉の父、福澤百助に嫁ぎます。百助の勤め先大阪で二男三女をもうけますが、32 歳で夫を亡くし中津へ帰り女手ひとつで子どもを立派に育てます。

江戸期から明治初期の激動期を苦労を厭わず明るく生き抜いた女性、息子にどう向き合ったのでしょうか。諭吉に家の手伝いをさせ、勉強しろとは言わず勉学通いを始めさせたのも 14 歳頃と言います。諭吉の向学心に応え、苦しい生活のなか実家の書籍を売ってまで大阪適塾に送り出すなど子ども思いの母親です。しつけは父親同様に厳しかった一方、周りの誰にでも分け隔てなく接しおおらかで合理的、諭吉の兄弟姉妹は仲が良くあたたかな家庭であったと思われます。諭吉の男女平等論にも影響を与えました。現代のお父さんやお母さん方の子育てにもヒントになることが多いでしょう。

晩年は孝行息子の熱心な誘いでついに東京に移るのですが、三人の娘をはじめ知り合いの多いふるさと中津に残りたかったようです。現代社会を生きる高齢者にあい通じるテーマですね。

「お順さんを朝ドラに登場させよう」と「諭吉の母お順さんの会」が活動を進めています。一緒に NHK を訪ねました。ドラマ化実現のハードルは高いですが、ふるさと中津を PR し元気にするため、『お順さん』に一役買っていただきたいものです。

「諭吉先生、お母さんにもお世話になります。」

お順さん
（慶應義塾福澤研究センター所蔵）